

日

・・・雨でも休まず、280, 281回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・臨時活動：森林広報：4月3日（土）～ 4日（日）：相模原さくら祭に協賛
「内陸・グリーンハブ構想に向けて・・・市役所第2駐車場で開催」
*相模原の森林ビジョン策定提言：森林環境・経済創出・地域社会の活性化
.....
- ・定例活動1：4月 4日（第一日曜日）；森林整備活動、担い手育成、技術向上。「持続的
森林経営：森林地団地化・集約施業」を目指す。弁当持参、参加費：400円
- ・定例活動2：4月18（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動：
・主食・自分のお椀・箸、飲料水。参加費400円、
*注意1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
・服装：汚れても良い服装、着替え・滑らない靴
・持参：成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水
*注意2：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を
敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

・生みの苦しみに遭遇している・・・NPO活動

自由競争経済原理主義は「21世紀には、善意・無償を前提としたNPO非営利活動がその抑止力になる（ピーター・ドラッカー博士）」。

今、正にNPO活動にも“抑止力になる戦い”を強いられている。当会で起こった事例では、「“緑のダム”の名を貸してほしい。名を使って国に補助金を申請する、成功したらその半分をよこす」。国際的に著名な某団体神奈川支部の代表者の言である。

右のような記事も登場する。社会の矛盾、非合理的な制度、足りない部分を補完する新しい視点の活動を悪用する輩も出てくる。NPOの活動の現場を知らないままに支援する団体もある。専門家への謝金を認めないことや、「食費・交通費」など聞いたことのない科目も出てくる。

NPOも会計基準を法制化しようとNPOシーズ（市民運動を支える制度をつくる会）が専門家を糾合して「NPO法人会計基準」を研究している。当会も独自に研究チームを組んで実に合わせたシステム化に取り組んでいるが、新しい「社会構造のシステムづくり」なるが故に未だ、突破口が見えない。

朝日新聞から
補助金狙いNPO
という記事について
紹介しましたが、
ウェブでは著作権の観点から
省略しました

* 何故、森の活動現場報告をニュースレターの“TOP”に持ってくるか。

当会は“森林現場での実践活動”団体である。現場活動を通して森林は、奈辺に問題があるかを考える団体である。現場を実践しながら、森林・林業の「ミクロ・マクロ」に目を光らせて、我が国の林業政策の行くべき方向を考えている。

いかなる林業の専門書を読んでも確信が持てないが、森林実践をしながら得る知識・体験が最も納得ができると感じ取っているからだ。論より証拠、実践ほど説得力のある言葉はない。(石村記)

.....

小原本陣の森・定例活動 3月7日(第1日曜日)

Forest Nova☆ 麻布大学2年 廣石由美

今回の小原の活動は残念ながら雨天のため、森での活動は中止となりましたが、相模湖交流センターでの勉強会に切り替えました。

そこで小原町の地域活性化に対する活動や、木材流通の矛盾・問題点、間伐材の木材パルプの活用、木質バイオエネルギー利用・可能性など、木材に様々な用途の可能性が広がっていることを知りうれしく感じました。

また、このような話し合いの続きに上映された世界中に衝撃を与えた、アル・ゴア元米副大統領のドキュメンタリー映画：『不都合な真実』の内容は、環境問題が余りにも重大な局面に至っていることを知り愕然としました。日常生活スタイルにも直結していることも再認識しました。

不都合な真実
のイメージを使用しましたが
ウェブでは著作権の観点から
省略しました

林野庁の広報ビデオ「林地集約施業」は、森林整備の方法などをわかりやすく解説したもので、どういふ施業をするか、経路はどのように作るかがとてもわかりました。また、様々な大型林業作業車も登場し、大木の伐採・処理・運搬する作業効率の良さには驚かされました。

実践の森林の活動体験から学ぶことは、とても多く大切だと日々感じていますが、実務外のこうした勉強会で得ることもたくさんあり、座学で学ぶことも、大事なことだと思います。Forest Nova☆の中でも時折勉強会を行います。もっとこのような機会を取り入れて実践の活動の場に活かしていけたら良いなと思います。

もう季節は3月、1年間はあっという間ですね。今回はForest Nova☆に入り活動を始めて1年が経過しようとしている1年生から1年間の活動に対しての振り返り、今後への意気込みを書いてもらいました。これからもForest Nova☆は真面目に元気に楽しく活動していきたいと思いますので今後もよろしくお願いします（廣石）。

活動に参加して、実際に森に行くことがないといけない発見や森の現状など多くのことを学びました。また日々の活動やイベントなどで多くの人とかかわれたことも自分の糧になりました。これからも今までの反省をいかしつつ活動に参加していけたらいいと思います。（麻布大学・矢野芽衣）

私はこの1年間、Forest Nova☆で活動したこと、また多くの人と出会ったことで、本当にたくさんのことを学ぶことができたと思っています。特に、実際に山で作業をし、さらに自分達で施業やイベントの出展の計画をしたりという活動が、私にとってはとても影響の大きかったことだと思います。今後も、定例活動やイベントを通し、多くのことを学んでいきたいと思っています。そして、学んだことを活かし、自分ができる限りの努力で、活動に貢献できるように頑張りたいと思います。（麻布大学・木島未華）

大学生になり、Forest Nova☆に入ってから約1年が過ぎました。今年は本当に初めてのことが多く、様々な人と出会えた年でした。このことには、大学生になったからというのがありますが、Forest Nova☆に入ったからというのがとても大きかったと思います。この1年間は森に行っても、初めてのことばかりで、わからないこともたくさんありましたが、とても充実した1年間でした。この1年で学んだことを活かして今後も活動していきたいです。（麻布大学・關根穂美）

今の活動を始め、今年1年で自分の足りないもの 間違っていたことが分かるようになってきました。山で活動することで普段、街中には見られないような表情を見られたり、直接見て触って聞いたりしたことで発見できたものもたくさんありました。そしてなにより現場で活動する人たちを見て、自分もこの活動に参加して一緒に山に関わっていきたいと思いました。新年度も多くのことを学んでいこうと思います。（麻布大学・植木聡）

.....

桂北小学生、中学生、望星高校生を含めて学生達が、自然から学ぶことで人間的な成長の凄さをマザマザと見せられています。また、彼らが活動の終了後も時には、薄暗くなるまで“活動の振り返り”と名付けて反省会を開く、その後姿に青年の持つエネルギーや成長しようと真摯に取り組む姿は“洗光：こうごう、しくさえも感ずるので。私たち年配者は、その姿から学ぶ事も多く、一層、彼ら後輩・子孫のために現実の環境破壊を阻止し、世の汚辱と闘わねばならぬと自覚させられています。私達が、こうして13年間「雨での休まず・・・」と活動を続けて来られたのも、この青年たちの励ましとも感ずるので

・若柳嵐山の森 定例活動：3月21日（第三日曜日）

夜半：暴風雨、明け方：風雨、出る時：雲の流れ早い晴れ間、相模湖駅では：風と晴れ間。
夜半の暴風雨が交通網に打撃を与えての所為か、JR・京王線、共に30分前後の遅れ。参加者の相模湖駅での集合悪し。

活動定刻・朝礼時の10時の参加は36名。遅れて、三々五々10時半時点では、会員24名、望星高校は春休みとあって、教頭先生など先生方が7名参加。何でも学校としては、宮村会員（教諭）の素晴らしい実績を評価してその功績により“望星の森”を「学校財産」と位置付けた、今後は、学校の正式の活動にする由。その他、学生連合7名とOB3名、全国インストラクター神奈川会7名、NPOみんなの森（世田谷区）5名、藤野町から飛び入りの5名。計51名。

過日の湿った重い雪と、昨夜半の暴風雨で森は荒れ放題。倒木と枝折れ。特に栗林の枝折れが酷い。兎も角、目の付く所から片付ける事として班ごとに自分のエリアの整理整頓に取り組む。風も漸次おさまり、時を経るに従って風弱まり、晴れ間も広がって作業は順調に進む。

本日3月定例の嵐山の森では、毎年恒例の“白梅の下の茶会”だが、梅林は折れ枝で無残に荒れている。・・・ので、基地集会場・樅の大木の下に茶席をセットし、午後の休憩時間から開席とした。茶席・亭主は、裏千家栗田宗久（栗田くみ）さん。

初参加の望星高校・先生方、インストラクター神奈川会の皆さん、NPOみんなの森の皆さんは、“まさか、森の中での茶席は予想もしなかったと興味津々（シンシン）！！”。最初は、何かと遠巻きに見ていたが、インストラクター会の事務局長：河口さん等が、客となって様子が分かってくると大繁盛。宗久宗匠としても、こんな森の自然の中での茶席は滅多にないことで楽しく、客との会話も弾む。閉席間際の午後3時まで、席の温まる間もない楽しい茶席でした。

嬉しい事の、もう一つ。学生連合フォレストノバのOB、4名中3名（大平・加藤・滝沢）が祭日連休を活用して参加してくれた事。滝沢先輩は遠路・三重・松坂からの参加。そして、朝礼では「後輩たちの支えになるために役に立ちたい、会社の休みを利用して可能な限り参加する」と挨拶してくれた。（石村記）



ウイークデイの作業は、ずっと悪天候に阻まれて久しぶりです。午前の作業はカタクリの自生地付近の笹刈払い。未だ、カタクリの芽は出ていませんが、笹が思ったより伸びていたのですをきれいに仮払いました。

午後は、彼岸花栽培地からヤブラン平に至る、歩道沿いの笹藪を刈払いました。ここには、モミイチゴが道沿いに沢山あり既に、白い花を咲かせています。手作業でのモミイチゴを残しての刈払いになりました。

5月にはイチゴの収穫が期待できます。この古道を「イチゴ通り」と命名したらどうでしょう！？バックヤードの河津桜は完全に葉桜となり、むしろ若葉が瑞々しく輝いていました。

一方。この付近の乱暴狼藉は激しく、至るところが無残に掘り返されていました。餌が足りないのか、個体数が増えたのか、ストレスがたまっているのか、いずれ後援全体に深刻な害を及ぼしそうな勢いです。

もう一つの災は人災、前回までにセンターヤードに植えたブルーベリーとブラックベリーの苗7本が全て姿を消していました。ブラックベリーの苗が50mほど離れたところに捨ててあるのが発見されました。ここを通る人に、森の恵みを提供したいとの思いで植えたのに、心無い人の仕業に暗澹たる思いをしました。残っている梅の木も何時までもつか、不安を覚えます。

草木染めに使うタデアイの種を森林インストラクター・神奈川会の白鳥さんから頂きました。これを4月に撒いて秋には、藍染の企画にしたいと思っています。懸念は猪君の乱暴狼藉。そこでお願いですが庭のある方にお持ち帰り頂いて、ある程度まで栽培してもらえませんか。

.....

緑のダム北相模では2～3年前、禁猟鳥のメジロや鶯の密漁者に悩まされました。大体、埼玉ナンバーが多く大体、2人連れでした。

密漁者は柄が悪く危険が伴いました。厄介なのは、酒を飲みながら森の中で焚き火をしていることでした。対策として警察と連絡を取りながら当方は3人構成で林道に停めている車のナンバーの撮影記録を示して、警告する役、穏やかに諭す者、防御棒を持った護衛役と役割分をして臨みました。来なくなるまで3年もかかったでしょうか。（石村）

ハナイカダの不思議

内野郁夫

葉っぱの上の小さな緑色の粒、これ何だと思いませんか？ 実は花の咲く前のつぼみなんです。なぜつぼみが葉っぱの真ん中にあるの？ 誰もがそう思うに違いありません。

この植物はハナイカダというミズキ科の樹木で、丘陵や山地の湿り気のある林内に生育する落葉低木。小原や嵐山の森でも見ることができます。つぼみが葉の真ん中にあるということは花も実も



葉の真ん中につくことになりませんが、これは一体どういうことでしょうか。

花はふつう葉の脇か、茎の先端につくものです。が、ハナイカダの場合はその葉の脇から出た花の柄が葉にくっついてしまった結果、このような形になったものと考えられています。その証拠に、葉の中央にある脈（主脈）を見てみると、花（つぼみ）のつく場所までの脈が際立って太いことに気がつくはずで

す。植物は生育する環境によって思いもよらない生活形をとることがありますが、ハナイカダが何故、葉の上に花を咲かせることになったのかは解りません。どんな利点があるのか。それはハナイカダ自身に聞いてみるしかないでしょう。

雌雄異株。雄株の葉には複数の花をつけることが多いので、写真のものは雌株だと思われます。若葉はおひたしにして食べられるそうですが、私はまだ試したことがありません。今年こそ是非！

それにしても、「ハナイカダ」とは素敵な名ですね。花や実の乗る葉を筏に見立てた命名ですが、こんな名前をつけられた植物は幸せです。先人たちの言葉センスが窺えるというもの。春になったら是非見つけてみたいものです。

.....

・かながわ森林づくりフォーラム：「副題：市民参加による美しい森林づくり」

2月13日（土）石村記

かながわトラスト協会主催による上記・フォーラムは、東京農大・宮林茂幸教授の基調講演と、三井物産・キリンビール・丹沢ドン会、NPO 緑のダム北相模の四団体をパネラーに、横浜銀行本店ホールで開催した。

サブタイトルに示す「市民参加の森づくり」は、専門家の発想だけでは駄目で、広く国民一般の理解・協力も必要だ、一般の英知も集めて進めようと言う事だろう。特に今回は、三井物産・キリンビールなど企業と行政、NPO との協働の接点を探ろうと意図したものとも思われる。

当会は、つねづね「一人の専門家より全ての人々との協働で：市民＋学際＋業際＋行政・司法・立法」と主張している。また、森林の保全・再生の手法は、F S Cガイドライン三原則（環境・経済・社会の調和する森づくり）である。当会の主張の具現策として、この4月に19番目の政令指定都市になる相模原市との協働を働きかけている。

司会進行の宮林教授の洒脱な雰囲気が故、「市民参加の森林づくりシンポ」を大きな盛り上がりにした。トラスト協会主催と言うのも新しい試みである。

閉会後の控え室で出演の三井物産・CSR室担当者から、「“緑のダム”の主張に興味ある。話し合いの機会をもちたい」との申し入れを受けた。これまで度々、企業との接点を探ってきたが企業からは、「企業側のメリットが見えないNPOとの接点は不要」と切り捨てられてきたが今回は、チョッと違う印象がある。



数年前、某大手銀行が当会の森林活動に参加したいと言ってきた。3月に限る

と言ったので、「何故3月か？」と問い詰めたところ、「年間予算が決まっており、これを消化せねば当社CSRを株主総会で報告できない」と言う事であった。森林のためでなく同社の“面子のため”であった。そんな事に利用されるのは不愉快だ。断ったが、NPOの本質を知らないままのアプローチが多いのに辟易する。「ネットワークを組みましょう」と名前だけを利用する団体もある。

だが、今回の物産との話は、どう取り組むかをジックリと話し合おうと言うことで「市民+学際+企業+行政+」が形になりつつある様に見える。世論は、非営利・市民団体の言うことを無視できなくなっており、営利法人=企業も経済になりにくい環境問題を、真剣に受け止める状況になっていっているのだ。また、昨今では、環境問題解決策が、経済に結び付く新しい業種・技術も多くみられる様になっている。今後は、ますます企業とNPOの結び付きも増えて行くだらう。

3月早々、川田会員と物産本社CSR室を訪ねた。環境問題とどう、取り組むか真剣に話し合った。物産として当会の森林現場活動に参加しつつ、お互いの役割を確認して行こうと言う事で合意し、4月以降、次のステップに向かう。

森林・林業の再生・・・、素人ながらに—— 森林資源の再考察

・森林の専門家でない我々素人の生活者から見て、森林林業の保全・再生はどうすれば良いかを考えてみた。そうすると、木材がどのように使われているかを考えざるを得ない。先ず、身近をグルリ、見まわして見ると至極、当たり前の事に気が付く。

- 1、住まい：何とまあ～、沢山の無機物から“家”が出来ていることか。コンクリートと鉄骨の土台・壁・天井。窓はアルミ・ガラス、壁面は合製材とビニール繊維。印刷壁紙に張り合わせと集成材。その集成材には有害化学物質のホルムアルデヒド(HCHO)等、その強力な接着性のために使われている。有害接着剤・防腐材の許容濃度には建設省基準には、F1、F2、F3と言うのがあって、F1は、0.5mg/L以下の有機化学物質の含有量である事。ところが、WHO(国際保健機構)のガイドラインでは、立米当たり0.08ppmを基準にしている。単位が一桁違う。建築学会で質したら「法律で適法としている」との事。これではシックハ

スで苦しむ人々が続出するのは当然である。国民の健康を国は、どう考えているのか。

2、カミ・紙：我が国の木材消費量の80%が輸入材である。その1/2がパルプ材。新聞紙、週刊誌、雑誌、折り込み広告、公官庁の配布物、はたまた：トイレットペーパーetc。膨大な輸入材・パルプが消費されている。これを国産材の替えられないか。人工林の針葉樹（杉・ヒノキ・松など）をパルプにすると繊維が長いからパルプに不適・あるいは製白度に欠ける・コストを言う人もいる。我が国の森林が危ないと言うのに、問題解決しようとししないのか。発想土俵の違う人々には困らされる。

3、新しい用途：木質バイオマス：「木」は太陽エネルギーの塊である。石炭にしても石油にしても「木」が原料である。「木：太陽エネルギー」を有効に使う方法は無いか。ある！、化石燃料の枯渇が心配な今、有効に燃やしてエネルギーに置換すれば良い。その技術開発も急速に進んでいる。

その他の用途：①高温加熱して油分を効果的に抽出する技術も実用化の一步手前に来ている。木を発酵させればメタノールも作れる。韓国・ソウルでは、食物残渣や糞尿を醗酵させてメタノール1200万人口の熱源を賄っている。

②製紙工程で困っていた黒液内のリグニンをタイヤやコンクリートに混ぜることで、これらの強化剤として使える。

③真空高温で「木」の不純物（ミネラル分）を除去し触媒加工すれば、有害ガスの吸着分解剤になる。この技術で有害ガスの吸着分解剤の実用が可能である。

大切な報告：代表理事交代：永井宏一氏から鈴木史比古氏へ

初代：鈴木重彦氏、2代：永井宏一氏を経て、来期4月から、3代；鈴木史比古氏（鈴木重彦氏のご子息）へバトンタッチしました。3月21日、相模湖交流センターで午後4時から、臨時総会を開いて総会の承認を経て決定しましたので報告します。

h o p s t e p j u m p . . . 、新体制で、新たな社会貢献の飛躍を目指します。

活動のモットー：急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・・そして、沢山の参加で森は、良くなる。（台風の日も勉強会開催。13年間、一日も休まず“継続は力”。）

・名 称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

・事務局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人：NPO 緑のダム北相模 運営委員会 03-3411-1636

・URL：<http://www.midorinodam.jp> E-mail: midorinodam@rk9.so-net.jp

・協働団体：セブン-イレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大付属・望星高校、生命の森宣言・東京

・ご支援の団体：WWF/JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFE メカニカル、東急コミニテイ、（社）国土緑化推進機構、神奈川県・環境農政部（緑政課）